

# 肝炎ウイルス精密検査助成が拡大される

## 鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

- 日 時 平成28年2月20日（土） 午後2時30分～午後3時50分
- 場 所 鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 27人  
魚谷健対協会長、川崎対策委員長  
芦田・大城・岡田・岡本・岸本・孝田・陶山・永原・野坂・廣岡・  
細川・前田・松木・松田・的野・満田・村脇・森・山下各委員  
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：村上室長、米田課長補佐  
蔵内課長補佐  
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

### 【概要】

・平成26年度肝炎ウイルス検査受診者数は8,321人で、受診率は4.1%、平成25年度と同率であった。受診者数は年々増加傾向である。検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は124人（陽性率1.5%）、HCV抗体のみ陽性者は26人（陽性率0.3%）である。

また、平成7～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数192,315人に対し、平成7～26年度の20年間の受診者は141,267人、推計受診率73.5%で、そのうちHBs抗原陽性者は3,257人（陽性率2.31%）、HCV抗体陽性者は3,670人（陽性率2.60%）である。

・「鳥取県肝炎ウイルス精密検査費助成事業実施要綱」を一部改正し、平成27年度より、市町村民税非課税世帯に属する慢性肝炎等の患者の定期検査費用の助成制度を開始した。また、平成28年度からは市町村民税235千円未満の世帯に属する者に助成対象が拡大されることが報告された。

### 挨拶（要旨）

#### 〈魚谷健対協会長〉

皆様には、日頃から健対協事業にご尽力頂き、深謝申し上げます。

本委員会は、今年は夏の開催はなく、本日の委員会が初会合で、報告事項が盛りだくさんである。本県の肝炎対策がより充実していくように、ご審議をお願いする。

#### 〈川崎対策専門委員長〉

本県はがん死亡が多く、色んな意味において新聞等で報道されている。その中でも、鳥取県は肝臓病が多く、肝臓がんの死亡率が高く、足を引っ張っている。

C型肝炎ウイルスはほぼ100%駆除出来る時代となる。今後、肝臓病は減ってくると思われるが、今後10年後までは、肝臓がん死亡者数は高いままであるので、皆さま方の英知をしぼって、今後の対策を検討していきたい。

本日、準備してあります議題につきまして、ご協議のほど、お願いする。

## 報告事項

### 1. 平成26年度肝炎ウイルス検査実績報告並びに平成27年度事業実績見込み及び平成28年度実施計画について：

蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

#### (1) 平成26年度肝炎ウイルス検査

平成26年度は19市町村で実施し、対象者数202,322人のうち、受診者数は8,321人で、受診率は4.1%で、平成25年度と同率であった。平成23年度より国が40歳以上5歳刻みの方を対象にした無料クーポン券事業を導入したこと等により受診者数は年々増加傾向である。

検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は124人、HCV抗体のみ陽性者は26人で、HBs抗原陽性率1.5%

で、平成25年度に比べ0.3ポイント減であった。また、HCV抗体陽性率0.3%で、平成25年度に比べ0.1ポイント減であった。HCV抗体陽性率は年々減少傾向である。

要精検者150人のうち精検受診者は97人であり、精検受診率は64.7%で、平成25年度に比べ7.4ポイント減であった。精検の結果、がんが2人発見された。57.7%は無症候性キャリアであった。

#### (2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は15市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導対象者 (人)	定期検査受診者数 (人)	定期検査結果 (人・%)			
			慢性肝炎	肝硬変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,720	875	139 (15.9)	8 (0.9)	5 (0.6)	3 (0.3)
C型肝炎ウイルス陽性者	844	407	200 (49.1)	18 (4.4)	7 (1.7)	6 (1.5)

肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

#### (3) 平成7～26年度の20年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数192,315人に対し、受診者数141,267人、推計受診率73.5%である。そのうちHBs抗原陽性者は3,257人（陽性率2.31%）、HCV抗体陽性者は3,670人（陽性率2.60%）であった。

年代別で見ると、平成7～25年度平均HCV抗体陽性率は60歳以上が高く、HBs抗原陽性率は40歳・50歳代が高い傾向である。

#### (4) 平成27年度実施見込み及び平成28年度実施計画について

平成27年度の受診予定数は国庫事業の肝炎ウイルス検査は19市町村実施で7,677人、市町村単独

事業は6町実施し772人の見込みである。

平成28年度実施計画は国庫事業の肝炎ウイルス検査は19市町村実施で7,919人、市町村単独事業は6町実施で820人を計画している。

### 2. 平成26年度肝臓がん検診発見がん患者確定調査結果について：松田裕之委員

(1) 平成26年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がんが1名発見された。肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が2名であった。がんでなかったものが2名、現在調査中のものが1名であった。

平成26年度よりPIVIKA II検査を行うことに

なり、異常高値でがん疑いとされた方が4名あり、そのうち1名は肝内胆管癌、がんでなかったものが3名であった。4名ともワーファリン服用者であった。ワーファリン服用者は、PIVIKAⅡ検査測定を行う必要はないので、肝臓病定期検査結果報告者の様式に「ワーファリン服用中は測定不要」と追記した方がいいのではないかという意見があった。

(2) 平成7～25年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、27例が確定癌であり、そのうち23例は死亡、生存中の4例のうち、2例は再発、2例は再発されていない。また、平成10～25年度定期検査確定がんが139例で、そのうち95例（他病死を含む）が死亡である。

がんと診断されてから10年以上生存されている方は、非常に稀であり、肝炎ウイルス検査で陽性の方を早期に発見し、定期検査をきちんと受診していただくことが重要である。

### 3. 鳥取県肝疾患専門医療機関について：

蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

鳥取県肝疾患専門医療機関については、肝炎対策協議会の協議を踏まえ、平成27年10月に13医療機関を指定更新。このうち、岡山大学病院三朝医療センターが平成27年12月末に診療行為中止による辞退職が提出され、これを受理し、現在、12医療機関を指定している。なお、指定期間は平成27年10月1日～平成30年9月30日まで。

### 4. 「鳥取県肝炎治療特別促進事業実施要綱」の一部改正について：

蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

平成27年度において、C型慢性肝炎患者等に対する新薬・ハーボニーの追加やインターフェロンフリー治療の再治療など医療費助成制度対象への追加としたことに伴い、「鳥取県肝炎治療特別促進事業実施要綱」の一部が改正され、その内容に

ついて報告があった。

### 5. 「鳥取県肝炎ウイルス精密検査助成事業実施要綱」の一部改正について：

蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

「鳥取県肝炎ウイルス精密検査費助成事業実施要綱」を一部改正し、平成27年度より、市町村民税非課税世帯に属する慢性肝炎等の患者の定期検査費用の助成制度を開始した。また、平成28年度からは市町村民税235千円未満の世帯に属する者に助成対象が拡大されることが報告された。

制度周知のため県が作成したチラシについて、一部修正が必要な箇所が指摘され、県は改めてチラシを作成し、関係者に配布することとなった。また、病院においては、院内の各診療科（内科、外科、放射線科）にチラシを配布していただくようお願いすることとなった。

申請の際の必要書類である診断書について、診断書料等を考慮すると受診者にメリットが少ないのではないかという意見があり、県において、今後、検討することとなった。

### 6. 平成26年度肝炎ウイルス検査の結果について：

蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

保健所においては、平成26年度実績はB型肝炎検査、C型肝炎検査ともに256件で、そのうちB型陽性者が3人で、陽性率は1.2%であった。平成27年度（12月末中間報告）は、B型肝炎検査183件、C型肝炎検査184件で、そのうちC型陽性者が1人で、陽性率は0.5%であった。

医療機関においては、平成26年度実績はB型肝炎検査1,512件、C型肝炎検査1,521件、B型陽性率1.1%、C型陽性率0.1%、平成27年度（12月末中間報告）はB型肝炎検査1,487件、C型肝炎検査1,487件、B型陽性率0.6%、C型陽性率0.1%であった。

県・市町村が実施する肝炎検査で陽性と判定された方を対象に、医療機関で初回の精密検査の費用の助成を受けた方は、平成26年度は44人、平成27年度（12月末中間報告）は、13人であった。

平成27年度より開始した肝炎定期検査費用（年2回を限度）助成を受けた方は、12月末中間報告では2人であった。

#### 7. 肝炎治療特別促進事業の認定状況について： 蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課 長補佐

平成20年4月から平成28年1月末までの新規受給者は、B型肝炎は1,128件、C型肝炎は1,472件であった。新薬の登場によりC型肝炎認定件数が大幅に増加している。

#### 協議事項

#### 1. 鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録更新について

平成27年度に登録更新となるので、3月中には

関係医療機関に届出書を配布し、申請手続きを行う。また、申請書類と一緒に登録基準を満たした「肝臓がん超音波診断装置」一覧を配布する。一覧表には、業者が部品の調達が出来なくなっているもの、また、法的には部品調達の責任がなくなっている装置が一部含まれている。故障しても、部品の調達が出来ない恐れがある装置があること。機器の交換の目安としては、超音波診断装置は10年間、プローブは5年間であることを医療機関に併せて周知する。

#### 2. その他

肝臓病定期検査結果報告者の様式のうち、次の2点を修正することとなった。

- ①PIVKA IIの欄に「ワーファリン服用中は測定不要」と追記。
- ②投薬の選択肢を「[核酸アナログ・直接作用型抗ウイルス剤・ウルソ・その他（ ）]」とすることとなった。

## 肝臓がん検診従事者講習会及び肝臓がん検診症例研究会

**日時** 平成28年2月20日（土）  
午後4時～午後6時  
**場所** 鳥取県西部医師会館 米子市久米町  
**出席者** 99名  
（医師：97名、看護師・保健師：1名、  
検査技師・その他：1名）

岡田克夫先生の司会により進行。

#### 講演

山陰労災病院院長特別補佐 岸本幸廣先生の座長により、鳥取大学医学部附属病院第二内科診療科群 助教 的野智光先生による「肝臓診療—最

近の話題—」の講演があった。

#### 症例検討

岸本幸廣先生の進行により、3地区より症例等を報告して頂き、検討を行った。

- 1) 東部（症例1例）－鳥取赤十字病院  
満田朱理先生
- 2) 中部－鳥取県立厚生病院 永原天和先生  
「鳥取県立厚生病院での肝臓診療の現状と肝炎陽性者に対する院内での取り組み」
- 3) 西部（症例1例）－山陰労災病院  
西向栄治先生